

「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～ 第1回

1. 実施日

令和3年4月24日（土）1・2限

2. 場所

1棟多目的教室

3. 対象

グローバル科2年生（6・7組）

4. 講師

鳥羽高等学校 教諭 宇川和余 佐々木啓成 中澤知里 宮崎雄史郎

5. 内容

春休み課題図書の読書成果発表

昨年度実施の「イノベーション探究Ⅰ」の最終回に紹介された参考図書リスト（それ以外でもよい）から選んだ本の読書レポートをもとに、グループ内で共有する。

1 グループ4人が基本

1人4分でレポート精読→5W1HD（D=Definition）を意識して気になった点を指摘し、付箋に記して貼る（これを3セット行う）

ガイダンス（趣旨説明）

（1）はじめに

（2）「イノベーション探究Ⅱ」ガイダンス（日程等）

（3）「イノベーション探究Ⅱ」の目標

①高校生だって世界を変える力がある

（資料「WWL・SGH×探究甲子園」探究成果ポスタープレゼンテーション要旨）

②グローバル・イシューとは何か、SDGsとの関係。

③課題研究とは

④課題・研究テーマを知る（昨年度の先輩の探究例も参考に）

⑤研究領域とテーマの例

（『課題研究メソッド』pp.32-33）

（4）ワークシート「課題研究テーマを考えよう！」記入・回収

振り返りと次回からの展望

6. 学び

他者が書いた読書レポートを読むことで、読書の質を高め問題意識を広げることを体得する。一年次に再発見した「京の智」を土台に、異文化理解・多文化協働をとおして探究していくことを理解する。さらに、グローバル・イシューの解決に向けて、仮説構築を行うことをとおして、ソーシャル・イノベーションの主体者になる意識を持つ。

7. 次回への課題

自分が興味・関心を持つ課題研究テーマについて考える。探究ノートを用意する。

8. 授業の振り返り

春休み課題図書読書レポートについては、昨年度、大学の先生方に指摘して頂いた「探究活動にどのような社会的意義を見出させるか」という点を踏まえ、課題として選んだ図書において、筆者がその本を書いたねらいの部分をまとめさせた。生徒たちは熱心に取り組んでいたため、ある物事について探究し発表することの社会的意義を少しは認識できたのではないかと。

昨年度はコロナ禍でスケジューリングに苦勞し、リサーチクエスト（RQ）の立て方など探究のプロセスの指導が不徹底な部分も大いにあった。そのため、今年度は5月22日（土）の京都橘大学乾准教授によるワークショップで年間の探究のプロセスを固めたい。故に、認識のズレを防止すべく、初回の授業においては、探究のプロセスに関する説明は最小限に留めた。

昨年度コンテストで賞を受賞した3年生の先輩に、1年間の探究の成果や身につけた力をプレゼンしてもらった。生徒からは大変好評で、憧れを抱いた生徒もいた様子であった。学年間の繋がりや生徒の学ぶ意欲を活性化させると思うので、継続していくのがよいと感じた。